

<牧会ミニ通信>No.38 2021. 2. 7.

2007年の春、山口市内に移住しました。住んでみれば驚きの連続です。移住者はわたしだけかと、肩身の狭い思いをしていたのですが、気が付けば、左も右も移住者ばかり一、しかも、大半は「西の方」です。わたしは「アイヌ語文化圏」の「東の方」です。

タクシーの運転手は、「お客さん、明治は長州からです」と誇らしげに言うではありませんか。えらいところにきた、と思いました。近代日本の先駆け、「長州ファイブ」というパイオニアがいます。歴代日本の総理8人がそろって長州のせいか、山口県内には、記念碑や銅像の多くを目にします。さらに、都会育ちのわたしには山口の自然は新鮮でした。アゲハ・ギンヤンマ・オニヤンマなどなど目を見張る思いで眺めていました。雨季には夜空に飛び交う無数のホタルに驚きました。気が付けば、いつしか周囲に馴染み始めていました。

その頃、宣教師が帰米し、無牧となった北九州の同盟教団の教会より支援の依頼がありました。山口市内から北九州まで約150キロ、かなりの遠方です。木曜日に家を出て日曜日午後に帰宅するというスケジュールです。二年後に後任牧師が決まりました。

その後、県内の牧師会に出席した折に、県内に3つの無牧教会のあることを知りました。思いがけなくも、その内の一つが自宅から30分ほどの単立「防府聖書教会」でした。何と、六人の姉妹たちが、録音テープによる礼拝を10年間も守り続けていたというではありませんか。

坪単価一万、500坪の土地に建てられた教会、駐車スペースは有り余っています。姉妹たちの、それまでの忠実な信仰生活と祈りにより、次第に、受洗者・転会者が与えられ、礼拝は賑やかになりました。

ほぼ、6年の奉仕が許されました。

その間、同盟教団加入が正式に承認されました。その後、「小泉健牧師」が後任牧師として赴任されました。何と一つ一つが守られてきたことか、御名を崇めるばかりです。

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城晋次